



Initiative Citoyenne Liberté vaccinale- information

1月9日 翻訳 暫定版、11日修正版

ベルギーからの爆弾：6種混合ワクチン **Infanrix**、GSK の内部文書が示す健康被害の懸念

[**SaneVax: Citoyenne**、ベルギーの監視団体、はグラクソ・スミス・クライン (G S K) の、健康機関の関係者しか目にふれない資料を開示した。以下の発表を読めば、どのような情報が一般人の目から隠されているかがわかるであろう。どれくらい頻繁にこの種の欺きが公衆衛生の名目で続いてきたのだろうか?]

Initiative Citoyenne の報道発表：

インファリックス 6種混合ワクチンの安全性：G S Kの権威者向け秘密文書

我々は、通常当局向けに用意された 1271 頁の G S K の内部資料を入手したと思われる。

トピック：小児用 6種混合ワクチン・インファンリックスの市販後薬剤安全性監視

6種混合ワクチン・インファンリックス **Infanrix** は、無料で、ベルギーの殆どすべての乳児に注射されている 6種混合ワクチンで、主に ONE (出生・幼児事務所、保健所?) で注射されるが、小児科、一般内科でも注射される。このワクチンはジフテリア、破傷風、百日咳、ポリオ、ヘモフィルスインフルエンザ (**Hib**)、B型肝炎から乳幼時を守るためのものである。

問題の文書には、2009年10月23日から2011年10月22日まで、ヨーロッパ諸国から G S K に報告されたこのワクチンの副作用の詳細が記されている。私たちは何故この文書が秘密扱いにされたか理解される：少なくとも 825 種の合併症と副反応が記されているのである。

とりわけ重要なのは、このリストが血液系、心血管系、神経系、免疫系、肺、皮膚、感覚器 (視覚、聴覚)、筋骨格系、関節、泌尿器系、消化器系、内分泌系と、体のあらゆるシステムと臓器を含みうる広い範囲の副反応を示していることである。

この特定の期間、G S K には 1742 件の副反応報告がよせられたが、503 件はリストに載っていない重篤なもので、56 件は重篤事例として記載されている。(2 年以上の期間に) 36 名の死亡例が登録されているが、殆どの例はインファリックス 6 混ワクチンを接種された 3 日以内におこっている。

G S K によれば、副反応に気づかれるのは、出荷本数 10 万あたり 14.6 というが、しかし、実際使用されたあるいは接種された数は出荷数より少ないということをおぼえておかなければ

ばならない。2011年11月に発刊された、良く知られた公的出版物である *Revue française du Praticien* (フランス臨床誌、医師向けフランスの医療雑誌) によれば、わずか1~10%の重症例しか報告されず登録されていない、ということ指摘しておく。それゆえ、実際の副反応事象は完全に小さく (*grossly under-estimated, completment sous-estimee*) 評価されているのである。

またこの文書は2000年にこのワクチンが上梓されて以来、少なくとも37人の子供の死亡のあったことが記されており、少なく見積もっても73人の幼児死亡があることがわかる。

もちろん我々はこれらの副反応が100%であり、間違いなくこのワクチンによって起こされたものであると想定するものではない。しかしながら、犠牲者は非常に若い幼児、およびちょうど息を始めたばかりの新生児で、ワクチンを接種されるまでは完全に健康であり、そして運命づけられた時間的要素があること考えるならば、この様な重篤な、どのひとつの副反応もこのワクチンでひき起こされたものではないと言うなら信用できない。

さらに、2006年、*Vaccine* 誌に投稿されたドイツの研究で、6種混合ワクチン接種後48時間以内で、通常ではありえない高い乳児死亡がおこっていることに光があてられた。

我々は秘密文書にある重篤な副反応の数は、GSKの医師薬剤師向けのデータシートともワクチンのパッケージに入っている添付文書にある数字と全く違うことを確認した。この添付文書は、注射したからといっても自動的に親に渡されず、ラベルにある偽の情報に基づき、ONEの職員がぶしつけに、唯一の副反応は中程度の発熱、軽い痛み、注射箇所発赤と親をなだめすかし、カルテに急いで貼り付けるのである。このようにして、医師も親も誤った情報を与えられ、数日あるいは数時間前に注射されたインファリックス・ワクチンによる多種の副作用結びつけて考えるガイダンスを得ることができないのである。

もし、この恐るべき副反応のリストが両親に利用され、おそらく保育園に預けるために最近注射された赤ちゃんが診断されたばかりの症状がそのとおりそのリストに発見されたらどんなことがおこるだろう。

そのうちの何名かは訴訟に始めざるをえないと感じることは間違いないだろう、なぜなら、製造業者と権威者はこのリスクを認識していて、2002年8月22日の親の権利法、とくに第8条は、意味ある決定と同意をするために親(あるいは保護者)は治療のリスクについて十分な客観的情報にアクセスできなければならない、と定めた法律に、単純に乱暴に銃撃しただけである。

事実がすべて上に挙げられたものようだと、GSKのすべてを秘密にしたいという願望(すべてのページに‘Confidential 秘密’と文字がスタンプされている)は容易に理解されるし、悲しいのだが、私たちは嘘のブタ・インフルエンザパンデミックや、スキャンダラスなオンケリクス大臣の署名のある完全にスキャンダラスな接触など、ベルギー政府の隠蔽体質は変わっていないことを知っている。

もうひとつの非常に顕著な面は、われわれがみることのできるGSKの非常に重篤な症状の中に、自閉症、乳児突然死症候群、幼児虐待症候群があるのである。これらは、当局が公的にはほんのわずかの関連すら認めようとしなかったものである。

この膨大な資料の大冊の中にあるいくつかの乳児の死亡例を注意深く読むならば、いくつかの国（イタリア、フランス他）の機関からGSKに連絡されていたことがわかる。それゆえ、これらの機関および医師たちは、このような死がワクチンと関係がある可能性がある、あるいはあるだろうと考えていたのである。

出生・乳児省は数ヶ月前まで、「世界中の医療関係者がかかわる限り、ワクチンは重篤な合併症は起こさない」と言ってきたのではないのか？すべての副反応は非常に注意深く監視され、もし少しでも気にかかる兆候があったとして、状況は再調査されるのだろうか？

1歳以下の児において、インフルエンザの注射後3日以内の死亡率が予測死亡率を上回ることのハイライトを当てることは重要である。この数字は実際に起こっている重篤な副反応の全体の1から10%をあらわしているに過ぎないことを覚えておかなければならない。さらに悪いことには、GSKはこれらの登録数を自然自発的と考えら得ないものを比較している。もう100%の乳児がワクチン接種されているのである。これらの比較が、もし始めからすでにバイアスのかかったものだとしても、（乳児突然死の）報告された数字が予測値を上回っていること、およびインフルエンザは他の幼児ワクチンに比べてリスクが高いことは、今や人々に伝えなければならない。

最後にGSKの重症度の基準は相対的であることは信じられない事である：すなわち、例えば、GSKは脳外科的手術、蘇生、腸の切除にいたったものを‘軽微な (minor) としているが、こんな手技は小児では’重要ではない(insignificant) ‘などということはいえないのである。

ワクチンの代金は税金で払われるのであるから、我々Initiative Citoyenneはこの犯罪的な情報を公衆の目から隠しておくことは正当でないと考える。

インフルエンザ・ヘキサはベルギーおよび世界中に疑問を起し続ける。

- アメリカの当局はこの6種混合ワクチンカクテルのなかの6種の、個々のワクチンの接種を勧めるのだが、このワクチンがカナダで使われてアメリカでは使われないのはなぜか？
- フランスでは5種混合ワクチン（B型肝炎なし）が利用可であるがベルギーではそうではないというのに、なぜベルギーの親たちは保育園にいれてもらうために、B型肝炎ワクチンは定期接種でないといわれているのに、選択的弁償の機構があるとはいえ、6種混合ワクチン、インフルエンザを強いられるのはなぜか？
- オンケリクス、ラーナン大臣は、5種混合ワクチンがベルギーで利用できないのはなぜか？

という登録された質問状に答える礼儀を持っていないのはなぜか。

- 昨年10月に **Cercle du Lac** のビデオで、またRTBFで再放送されたが、特許で固められたインファンリックスが金を生む牡牛であることを説明した前 CEO のジーン・ステフェンヌを利したのでないか。
- 2004年このワクチンが導入されてから、正確に何人のベルギーの子供たちが死亡し、慢性疾患に苦しみ、治癒しない障害、治癒しない慢性疾患を患っているのか？ ONEは繰り返し言っているが、「100万人一人」というのはどれくらい正確なのか？
- 多発性硬化症が、副反応としてはっきり単味のB型肝炎ワクチンと（混合ワクチンの）インファンリックスの箱の添付文書にあったのだが、最新版の薬剤師向けレファレンスブックから神秘的に消えたのはなぜか？
- 市販前の調査で、生涯一本もワクチンを打たない子供と、インファンリックスを打った子供を比較した調査はどうだったのか。世界中の子供にこのような実験的ワクチンを無作為に注射する前に、このような調査をすることは基本的で倫理的ではないだろうか。

市民の監視人として、このワクチンの効果と、子供に注射をするようにすべてのベルギーの親に課税する理由をについて、緊急の詳しい調査をすることを要求する。再度言うが、‘子供の安寧のため’ と国民の健康福祉のためというよりは、ワクチンメーカーのビジネスのためであり、脅し (intimidation) と強制 (Coercion) が行われていることは明らかである。

Collectif Initiative Citoyenne